

普及活動検討会実施報告書

(美里) 農業改良普及センター
実施月日：令和5年2月3日
実施場所：美里農業改良普及センター

1 検討内容

No	検討項目
1	土地利用型農業法人の早期経営
2	実需のニーズに応じた「吟のいろは」の品質向上と栽培定着
3	土地利用型農業法人が取り組む加工業務用いんじんの生産安定
4	令和5年度普及計画

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者		学識経験者	1
市町村	3	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
No. 1 土地利用型 農業法人の 早期経営	4.3	<ul style="list-style-type: none">・法人の活動の結果である決算書・試算書に、働きかけにより関心を持つようになったと感じる。思い（計画）と結果（決算書・試算書）がつながって欲しい。・計画を立てる際は、参考になる宮城県収量や収入の指標となる資料があると参考になると思う。計画実行後は、実際の経営の数値に置き換えられてるようになると思う。個人法人にかかわらず、各経営の課題問題を追及して行き、管内の次世代を担う若い世代へつなげる、必要なプロジェクトだと思う。・役員が財務状況や利益構造について理解し、経営課題の把握や将来計画について話し合える知識と環境が形成されたこと、経営を支える生産現場においても排水対策や防除などの基本的栽培技術が習得されたことなど、きめ細やかな伴走型支援を行ったことは大いに評価される。当該法人への支援を通じて得たノウハウを活かし、今後の普及活動に期待するところである。・法人の成長が感じられる。天候等の影響もあったと思われるが、法人の	<ul style="list-style-type: none">・対象である法人の理事は会計勉強会等を通して財務状況や利益構造について理解が深まり、経営課題の把握や対策、後継者の確保について話し合いを行うようになっています。今後も関係機関や専門家等と連携を図り協力をいただきながら、法人運営に必要な経営管理能力の向上や経営承継に向けた支援を行います。また、プロジェクト課題の活動内容と成果についてとりまとめを行い、支援手法やノウハウを共有し、各農事組合法人に対応した支援を目指します。

		<p>現状の適正な営農面積や経営状況など関係機関との情報共有を今後した方が良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員の財務状況や利益構造について理解のできたこと、排水対策等栽培技術が向上されたことについて非常に評価できる。 今後についても、連携し、継続的な指導をお願いする。 	
No. 2 実需のニーズに応じた「吟のいろは」の品質向上と栽培定着	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつであるが、良い方向に進んでいるのだろうと感じる。経営目線では、「吟のいろは」がうまく栽培されていくと、農家メリットとしてどれくらいのものになるか、を示してほしい。 ・「吟のいろは」は県古川農業試験場で育成され、令和2年2月に品種登録された酒造好適米品種である。栽培管理技術の確立と蔵元のニーズに沿った品質確保が課題であり、解決に向け展示ほ場の設置をはじめ、生育調査、現地検討会、巡回指導等、徹底した管理指導に取り組んだことは大いに評価される。また、新型コロナの影響により、対外的な活動が自粛される中、実需者との意見交換会などを通じ、実需者ニーズと生産技術を有機的に結びつけようとする姿勢も評価される所である。大崎管内には10の酒蔵が点在していることから、引き続き、栽培技術の定着と管内市町への普及促進に期待したい。 ・順調に成果が得られているように思われる。 ・豪雨災害などの被害があった中、継続的にプロジェクトに取り組んでいただき、生産者の栽培技術が向上していることから、次年度の作付も拡大に繋がっている。今後についても、連携し継続的な指導をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前課題からの継続した現地指導と県庁と連携した検討会などの結果として、大雨災害もあり、目標達成は叶いませんでしたが、新規取り組み者も含めて一定の成果を収めることができました。 地元の酒蔵と連携した栽培であることから、「吟のいろは」の収量と品質に応じた加算金が手厚く、販売実績も徐々に拡大していることから、実需側と供給側の双方にメリットがある取り組みだと認識しています。 県内最大の酒米の産地として、継続して「吟のいろは」のデータを蓄積しながらさらなる高位安定生産のため指導を継続していきます。
No. 3 土地利用型農業法人が取り組む加工業務用にんじんの生産安定	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨被害というのが、近年では想定外のことで無く感じる。また、契約出荷量の確保という中で、ほ場の選定や収量アップの取り組みが、必要であると感じる。 ・高収益作物の栽培にあたって排水対策が重要な課題になっていると思う。いかに環境の条件整備をして行くかが重要であるため、環境マップ等の作成やリスク管理マニュアル等があるとよい。 ・美里町内の農業法人を中心に加工用ニンジンの生産が開始されてから3年が経過し、更なる推進が求められてきたところである。プロジェクトでは、生産拡大に向けた課題として、排水対策による湿害回避や加工業務用に適した品種選定などに取り組み、湿害リスク調査に基づくカットドレーンや弾丸暗渠による排水対策、土壌診断に基づく追肥や緩効性肥料の活用を図るなど、ほ場条件の改善や適期作業の定着が図られたこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害を受けた中塚地区の圃場調査では湿害リスクは低いと判断されましたが、24時間で220mmの集中豪雨や地形的な理由もあり浸冠水を免れませんでした。今後は表面排水の強化や、環境条件の良い場所への換地など、更なるリスク管理を進めてまいります。 ・販路拡大については、現在、県庁園芸推進課の協力を得ながら、新たな取引先との交渉が進められているところです。 ・生産者の技術は年々向上しており、法人間の連携も進んできております。今後も

		<p>とは大いに評価される。</p> <p>引き続き、品質・収量の安定、更には販路拡大にも期待するところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路確保として、役割分担も必要と思われるので、新たな関係者の追加も検討したらよいのでは。 ・今後とも栽培技術の向上に繋がるよう連携して取り組んでいきたい。 <p>また、今年度の課題であった販売の問題については、J Aとしても関係機関と連携し所得増大に取り組んで参りたい。</p>	<p>関係機関と協調し生産安定と産地化に向けて支援を継続してまいります。</p>
令和5年度普及計画	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・あくまで栽培指導に重点をおいていただきたいが、年々規模拡大していく事業体が増えている中で、経営体（経営者）の教育、意識改革の必要性を強く感じる。バランスの良い指導を望む。 ・生産者が意欲を持って営農を継続できるよう、個社支援から面的支援へと農業の成長産業化に向けた取組を期待する。 ・来年度プロジェクト課題対象法人は、J Aの経営管理支援事業を利用している。 ・涌谷町の小麦についても、産地として現在栽培マニュアルを整備中であり、引き続きご指導をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の経営規模拡大が進む中、経営の持続的発展のためには、基本的生産技術の向上はもとより、大規模化に対応した生産の効率化や組織運営能力の向上等も必要となっており、バランス良く支援を行うよう努めてまいります。また、プロジェクト課題の取組については、関係機関と連携して地域への波及も意識しつつ活動を行ってまいります。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・最近、G A P取得の農産物を求めている企業や量販店が増えてきており、特に昨年10月頃からの問い合わせが大変多くなってきていることから、販路拡大や規模拡大をして行くには、G A Pの取り組みが必要だと感じている。普及センターでも取り組み支援を今後拡げていただきたい。 ・今年度の成果について感謝する。少人数の中でも、これまで通りの活動をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産物の生産工程管理等への関心が高まっていることを踏まえ、GAP推進担当者や指導員資格者を中心に、GAP導入や定着に向けて支援を行ってまいります。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する

